

必要経費の目安

ご旅行代金の他に別途下記の料金がかかります。
※詳細は、渡航手続き書類にてご案内申し上げます。

- ◆空港施設使用料 / 国際観光税 / 海外空港税・燃油特別付加運賃(32,000 円) 上記は 2025 年 5 月現在の金額です。航空券の発券時点でレートは変動いたします。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。
- ◆渡航手続諸費用 (パスポートを新規取得、更新の方)：パスポート新規申請代 (5 年用 11,000 円 / 10 年用 16,000 円 / 各自治体の戸籍謄本・住民票発行手数料や写真代別途要) このご旅行には 2025 年 2 月 24 日以降のパスポート有効期限が必要です。(＋2 週間以上の有効期限が望ましい)
- ◆お一人部屋追加料金：45,000 円 (ホテルは基本 2 名一室です)
- ※お一人参加で相部屋をご希望の場合、最終的な部屋割りによってはやむを得ずお一人部屋追加料金を頂戴することがございます。予めご了承くださいませ。
- ◆任意の海外旅行保険
- ◆超過手荷物料金：規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金
- ◆個人的費用：旅程表に明記されていないものの費用 (食事代、飲み物代・自由行動時の諸費用等)
- ◆ご自宅～発着空港までの交通費



ご旅行条件

旅行条件の詳細は「旅行業約款」(募集型企画旅行契約)によります。この旅行は2025年5月1日現在を基準としています。
■旅行契約の解除参加者が最少催行人数に達しなかった場合は、旅行を中止することがあります。
この場合は出発の23日前迄にお知らせします。
＜取消料＞
お客様都合で旅行を取消す場合は、下記の取消料をお支払いいただきます。
＜解除時期・取消料＞

契約の解除期日	
旅行開始後日の前日から起算して遡って40日目以降	旅行代金の10%
旅行開始後日の前日から起算して遡って30日目以降	旅行代金の20%
旅行開始日の前々日以降	旅行代金の50%
旅行開始後の解除または無連絡不参加	旅行代金の100%

ご旅行要項

- 旅行代金に含まれるもの
①企画手配料金および手配料金 ②交通費：旅程に明示した航空運賃、旅程に明示した専用車料金、列車料金 ③宿泊費：下記ホテル又は同等クラスのホテル(弊社基準)の基本宿泊料および税、サービス料(基本2名一室) ④食事代：旅程表明示 ⑤見学施設の入場料 ⑥現地協力者の謝礼・同行費用 ⑦添乗員1名同行費用 ⑧視察費用
- 旅行代金に含まれないもの
①旅程表以外に行動される場合の交通費、宿泊料、飲食費等
④個人的費用：旅程表に明記されていないものの費用・食事の時の飲み物代・自由行動時の諸費用等
⑤航空会社が課す日本港施設使用料・国際観光税・海外空港税・燃油特別付加運賃(32,000円) 2025年5月現在※航空券の発券時点でレートは変動します。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。
⑥お一人部屋料金：45,000 円 ⑦日本国内の交通費、前泊の費用 ⑧海外旅行傷害保険料

旅行企画・実施

観光庁長官登録旅行業第84号 JATA正会員

●この旅行に関するお問合せ・お申込みは下記まで



株式会社 富士国際旅行社

〒231-0062神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7
ヒューリックみなとみらい11F-4

総合旅行業務取扱管理者：西須 輝理

TEL:045-212-2101 FAX:045-212-2201

henshu@fits-tyo.com 担当：西須・山田

営業時間：月～金曜日／AM10:00～PM6:00

(休業日：土日・祝日)

ホームページ：http://www.fits-tyo.com/

お申込方法

- ①【紙でお申込みの場合】下記の予約票にご記入いただき、富士国際旅行社宛に郵送またはFAXでお送りください。予約票が届き次第、旅行社より取引条件説明書面とお申込書を他の必要書類とともにお送りいたします。
- ②【ウェブで仮予約の場合】下記QRコードにアクセスし、仮予約フォームを送信下さい。
- ③弊社よりお送りするご案内書面に記載の銀行またはゆうちょ銀行に、**申込金50,000円**(旅行代金内金)をご送金ください。(申込書と申込金の両方の到着をもって正式申込)
- ④ツアー実施確定後、弊社よりご連絡いたします。
- ⑤出発2～3週間前に旅行説明会を行います。(オンラインと会場両方可)

..... き・り・と・り

参加予約票

株式会社 富士国際旅行社 宛

戦後80年企画 フィリピン歴史探訪 5日間

2025年8月24日(日)発

パスポート ローマ字表記		性別	生年月日	年 月 日生れ () 才	ウェブ仮予約はこちら↓
氏名		男・女	パスポート	有効旅券(パスポート)【有・無】 パスポート番号： 有効期限： 年 月 日	
住所	(〒 -)				
連絡先	【tel】() - 【fax】() - 【携帯】 - - 【e-mail】				

米軍基地を撤去させたスービックと市民の力で稼働を止めたバターン原発見学

戦後80年企画 フィリピン歴史探訪



旅行期間

2025年8月24日(日)～8月28日(木)5日間

旅行代金

325,000円

※費用の他に航空便費用に付随する海外空港税・航空保険料等・成田空港施設使用料・保安料32,000円がかかります。発券時のレートにより変動いたします。差額は返金・又は集金させていただきます。

定 員

20名様 (最低実施人員10名)

申込締切

7月31日(木)

添 乗 員

成田空港から同行します。

Check Point!



●戦後80年、マニラ市街戦跡地訪問や神風特攻隊出撃の地、バターン死の行軍跡を見学します

●長年フィリピン在住の日本人ガイド HIDEKOさんが同行・解説！

現地ガイド・HIDEKOさん

フィリピンの教育旅行、平和教育のテーマのツアー、戦跡ツアーなどのスペシャリスト。現地で戦跡ツアーのガイドを長年続ける。アジア太平洋戦争での戦跡ツアーにおいて豊富な知識や経験を持つ。次世代への教育旅行プログラムの開発も担う。



Peace Green Humanity

旅行企画・実施

(株) 富士国際旅行社

観光庁長官登録旅行業第84号・JATA正会員

旅 程 表				
日次	都 市	交通機関	行程・宿泊地・食事（朝・昼・夕）	
① 8/24 (日)	成 田 空 港 発	航空機	午前：空路  フィリピンの首都マニラへ (成田空港集合時刻：午前7時30分予定)	
	マ ニ ラ 着 / 発	専用車	午後：マニラ着後、ガイドさんと合流。陸路にてクラークへ	
	ク ラ ー ク		クラーク元米空軍基地跡見学 ＊神風特攻隊出撃地 ＊弾薬倉庫群 見学後、経済特区となっているスービックへ	
	ス ー ビ ッ ク 着		ス ー ビ ッ ク 泊	B × L 機 D R
② 8/25 (月)	ス ー ビ ッ ク	専用車	午前： スービック米軍海軍基地跡見学 午後： メトロ・スービック・ネットワーク と懇談 ＞基地撤去後の利用、問題、新しい課題・解決に取り組むNGOと交流	
			ス ー ビ ッ ク 泊	B H L R D R
③ 8/26 (火)	ス ー ビ ッ ク 発 バ タ ー ン 着	専用車	陸路、バターン州へ 午前： バターン原発見学 ＊市民運動で稼働をストップさせた原発の内部を見学 ・格納容器 ・制御室 ・タービン など	
	バ タ ー ン 発 マ ニ ラ 着		午後：マニラに向けて移動 ＊「バターン死の行進」モニュメント	
			マ ニ ラ 泊	B H L R D R
④ 8/27 (水)	マ ニ ラ	専用車	終日： マニラ市内見学 ＊リサール公園 ＊【世界遺産】サン・オグスティン教会 ＊日本軍性暴力被害者の支援団体と交流 ＊サンチャゴ要塞 ＊英雄記念博物館	
			マ ニ ラ 泊	B H L R D ×
⑤ 8/28 (木)	マ ニ ラ	専用車	午前：貧困問題に取り組む支援団体のお話を聞きます	
	マ ニ ラ 空 港 発 成 田 空 港 着	航空機	陸路、専用車でマニラ空港へ 午後：空路  帰国の途へ 成田空港着後、解散（到着時刻：20時30分頃予定）	
			B H L X	D 機
●注意 現地の都合により、訪問順序・日時が入れ替わる場合がございます。 ●利用航空会社 ：フィリピン航空、日本航空、全日本空輸いづれか ●宿泊予定ホテル：スービック＝セントラルパークリーフリゾート／バターン＝カーサヴェレスホテル／マニラ＝ホテルザベリールフィントラムロス または同等レベル ●旅程表のマーク：B＝朝食、L＝昼食、D＝夕食、H＝ホテルで、R＝レストランで、X＝自由食、機＝機内食 ※機内食は、航空運賃に含まれる航空会社が提供するサービスです。有料あるいはサービスが無くなった場合は各自でお取りいただきます。				

フィリピン基本情報

【正式国名】フィリピン共和国

【人口】約1億1584万3千人（2024年推定）

【言葉】タガログ語 【時差】日本より1時間遅れ

【通貨】フィリピン・ペソ

【食べ物】歴史的に様々な国の影響を受けているフィリピンでは多国籍料理が楽しめます。主食は米で、味付けにはココナッツや魚醤がよく使われます。南国ならではのフルーツも魅力的です。

【気候】フィリピンの気候は熱帯性気候。年間を通じて暖かく、年平均気温は26～27℃。6～11月が雨期、12～5月が乾期に分かれています。

フィリピン 全図



現地の気温（8月）

都市	最低気温	最高気温
マニラ	2 6℃	3 1℃
東京	2 7℃	3 1℃

旅のポイント・・・訪問先



クラーク元空軍基地跡

撤退後、再開発が進む米軍基地

マニラから車で北へ2時間。太平洋戦争勃発の契機となった真珠湾攻撃と同時期に、日本軍によって奇襲された場所でもあります。日本軍占領時に使用された神風特攻隊の飛行場跡が残されています。戦後は、米軍によって占領され、ベトナム戦争の出撃基地になりました。現在は「経済特区」に指定され、外国資本が多く入り、複合リゾート開発が進んでいます。92年以降、元米軍跡地から有害な汚染物質が検出され問題になっています。



米軍スービック元海軍基地跡

マニラから北西へ車で2時間半。かつて米海軍の世界最大規模の施設といわれた基地がありました。15,000haの陸地を持ち、山間部が多くを占めています。山々は空からの射撃訓練場にも使用されていました。1991年のフィリピン上院決議に基づき、フィリピンに返還後、「経済特区」に指定。複合リゾートが建設され、基地に頼らない経済発展が実現しています。一方で、長く米軍管理下にあった湾周辺は、基地返還後も残留化学物質や重金属類、石綿、PCBなどに起因する深刻な環境汚染被害が起こり、住民は苦しめられました。また、民間利用されている港に米海軍のミサイル駆逐艦や輸送艦などが訓練や補給のため頻繁に寄港しており、返還されたにもかかわらず、訓練や抑止力を理由に基地の跡地が再び使用されていることに、地元住民は反発を強めています。



バターン「死の行進」

1942年、アメリカ軍の主防衛線はバターン半島の付け根近くにあり、日本陸軍が攻撃を続けていました。1月下旬にアメリカ軍防衛線は半島の中央部分まで後退。サマット山麓のカポット台がバターン戦の最激戦地となりました。同年4月3日からアメリカ、フィリピン（米比）軍と日本軍の総力戦が行われ、4月9日、サマット山の陥落により米比軍は降伏。日本軍はバターン半島を占領した後、捕虜となった米比軍兵士約7万6000人を捕虜収容所への移送のため最長100数キロ歩かせました。道中、マラリアなどの病気や、日本軍の監視兵による虐待、殺害などにより、多くの死者を出したことから、「死の行進」と呼ばれています。この「死の行進」は日本軍の残虐性を伝える事件として知られており、フィリピンでは、バターンが占領された4月9日を、戦闘や死の行進の犠牲者を悼む日として祝日としています。



バターン原子力発電所

1984年マルコス政権下でアメリカの肝いりで作られた原発は、1986年のアキノ政権期、近くに地震断層と活火山があることから安全ではないとして営業開始を許可されず、その後一度も動いていません。再稼働の議論も浮上しましたが、福島原発事故や市民の根強い反対運動により、現在も稼働していません。



弾薬庫跡
(クラーク基地内)



神風特攻隊の飛行場跡



▲1990年のスービック基地



▲バターン死の行進の
モニュメント

1986年、独裁的なマルコス政権に抗議する約100万人の市民が集まり、その大きな動きが政権を退陣まで追い込んだ「エドゥサ革命」。この「**ピープルパワー（人民の力）**」の運動は、原発稼働の阻止、米軍基地撤去のたたかいいにも発展していきます。米軍基地については、米比軍事基地協定が1991年期限切れとなるとき、ピープルパワーの動きを受け、上院議員の12対11の反対で協定延長が否決され、米軍基地撤退が決まりました。市民が社会を動かしたピープルパワーの運動は、様々な団体がつながりながら、今も続けられています。